

財団法人 ハイライフ研究所 平成 22 年度研究

1. 各研究の概要

① 21 世紀のハイライフに関する研究

[研究テーマ 1]

「これからの都市生活を考えていくための、
新世代コミュニティの研究」

「研究目的」

都市における生活者の関係性の希薄化については、長いこと問題としてあげられてきたが、近年、さまざまな形でコミュニティ構築を模索する動きが顕著となっている。今研究ではこれらの都市生活者の新しいコミュニティ活動および、その広がり方を研究し、これからのまちづくりとコミュニティのあり方を探ります。

「研究概要」

本研究では、街を軸に新しいネットワーク型コミュニティが生まれている事例をもとに、次世代コミュニティのあり方を探ります。

特に、都市に集まる若者の志向や欲求の受け皿となってきた渋谷などに見られる若者のコミュニティは、常に時代のサブカルチャーを作り街の性格を形成してきました。そして、その活動の拡大とともに単に若者だけのコミュニティというにとどまらず、幅広い層を包含して広がりを見せ始めています。

このように活動の広がりを見せる事例を調査し、その背景・経緯、活動とそのマネジメントをどのようにしているかを分析し、街の変遷に大きく関係してきた過去の動きとを比較しながら、これからのまちづくり手法を探ります。

本研究の成果は、次世代の地域行政におけるコミュニティ支援、地域活性化、また、地域開発、企業における商品開発、商業開発、マーケティング、コミュニケーションなどの活動に資する基礎資料といたします。

「研究体制」

研究機関：ハイライフ研究所

研究メンバー：井口 典夫（青山学院大学社会連携センター所長）

伊藤 剛（(有)ASOBOT 代表取締役）

榎本 元（(株)読売広告社都市生活研究所所長）

仙洞田 伸一（財団法人ハイライフ研究所主任研究員）

友田 修（LLP まち・コミュニケーション研究会）（所属(株)環境計画研究所）

[研究テーマ 2]

「次世代の豊かな都市生活の知恵を探る
市民活動アーカイブ構築の研究」

「研究目的」

「次世代の豊かな都市生活」に資するために、国内外新旧を問わず、次世代の予兆となる様々な市民活動のアーカイブ構築を目指します。

「研究概要」

今は、大きな社会変革の時代にあります。

豊かさという価値観や消費行動、人と人との繋がりなどのあり方は模索状態にあり、次の時代の豊かな都市生活のあり方を予測する上では、これまでにない「発想の転換」が必要であると考えます。そして、不確実な時代を打破する動きは、社会の中の様々な場所で発生しており、これまでもこのような動きをとらえまとめ上げていく研究がなされ、その後の社会のありように大きく影響を与えてきました。

本研究では新しい時代の予兆となるような様々なコミュニティ活動、人々の動き・活動を発見し、それを収集し、ヒントとなる事象毎のカテゴリーを分類し、そこから新しい時代の“知恵”を探り出していきます。そして、それらを積み重ねることにより可能となる新しい公共的情報インフラとしての都市生活を豊かにするための情報装置（市民活動アーカイブ）をそのありようも含め開発していくことを目指し 2年にわたる研究として取り組みます。

「研究体制」

研究機関：（財）ハイライフ研究所

研究者：柏木 博（LLP まち・コミュニケーション研究会）（所属 武蔵野美術大学教授）

大竹 誠（LLP まち・コミュニケーション研究会）（所属 現代デザイン研究室主宰）

長沼 行太郎（LLP まち・コミュニケーション研究会）（所属 文化学院 主任研究員）

仙洞田 伸一（ハイライフ研究所主任研究員）

友田 修（LLP まち・コミュニケーション研究会）（所属(株)環境計画研究所）

ハイライフモデル調査の展開

都市生活者意識調査 2010 (仮称)

「研究目的」

生活者のよりよい生活の実現へ向け調査研究を行っていく上での基礎研究として都市を中心とした生活者の生活意識やニーズを把握する総合調査を長期的視点に立ち実施し、開示を図り幅広い研究者や都市開発・創造にかかわる幅広い組織・個人等に便宜を図るとともに、今後の当研究所研究活動のベースとしていきます。

「研究内容」

都市生活者の生活意識を幅広くとらえその現状を把握するとともに、長期にわたる調査として実施することにより時系列化することを通しその変化と方向性を把握します。

また、可能であれば、生活に影響を及ぼす社会環境の変化等を見据え基礎調査項目に別途タイムリーな年間研究テーマを付加し分析を加え、ホームページ等を通じ適宜情報提供を行っていきます。

本年度を一年目とし、今後長期にわたり継続して展開を図る予定です。

●調査概要

- ①調査地域：東京・大阪
- ②調査対象：13～74歳男女 約1800サンプル
- ③調査方法：訪問留置き
- ④基本調査項目：
 - i. 生活全般について＝生活満足度・生活実感・・・・
 - ii. 生活意識＝基本項目（衣・食・住・買い物・健康・余暇・・・・）
個別項目（仕事・家庭・学問・お金・景気・・・・）
 - iii. 性格 等々

「研究体制」

研究機関：（財）ハイライフ研究所

研究メンバー：立澤 芳男（マーケットプレイスオフィス代表）

上野 昭彦（ハイライフ研究所主任研究員）

高津 春樹（ハイライフ研究所専務理事）

他

③ハイライフ研究に関する普及活動

「ホームページの充実」

- ◆生活者への研究成果の普及および情報発信の媒体として重要性を増すホームページに関してはより一層の充実を図っていききたい。
- ◆研究報告書・セミナー・シンポジウム等の研究成果のアーカイブ化を通じた生活者の研究活用の利便性アップはもとよりインターネットの特性を活用した恒常的かつ研究所独自の生活者向け情報・資料提供に関しより一層の強化を図る。
- ◆特に動画配信に注目し、各研究のレクチャー化及びホームページ上でのオリジナル講演の実施等を通じた研究成果の活用の幅を広げる試みにトライをしていききたい。
- ◆またホームページへの注目アップと生活者・研究者とのネットワークづくりを目指すメールマガジンの強化を図りたい。

「ホームページ上での恒常的なデータ・情報提供の実施」

- ◆ インターネットの特性を活用しハイライフ研究所の研究テーマに即し、日常的なデータ・分析・情報等を企画化し発信していく。
 - ①「High-Life」データファイル＝都市と生活～消費の現場を追う
 - ・百貨店・GMS、ショッピングモール（郊外・都心複合型）、大型家電ストア・ホームセンター、駅中等各業態を通して地域の生活変化を探りレポート。
 - ②「都市生活マガジン」
 - ・都市における開発、住まい、暮らし等に関する情報をタイムリーに提供。また、情報提供や意見を募る等生活者との2Wayコミュニケーション展開も図りたい。
 - ③「海外事例にみる都市の変化と都市生活のありよう考察」
 - ・おもにEUで取り組まれている、公共空間の可能性を広げる取組、省エネルギー型コミュニティ構築等新たなライフスタイル構築の取組、そして、縮小都市の時代への対応等をもとに今後の都市空間・都市生活の在り様を考えレポート。

「ホームページ上でのミニセミナーの実施」

- ◆生活者・研究者とのダイレクトな接点での交流・協働としての催しは必要ですが、準備・費用等を考えると広く展開を図るには限界があります。当研究所ではホームページを充実させており、これを活用し研究テーマに沿ったホームページ上でのセミナーを充実させていきたいと考えております。

・座学「住まいの未来を考える」

※これからの住まいに影響を与える要因を、ライフ（生活者変化）、ソーシャル（社会変化）、ステージ（都市変化）、カンパニー（企業変化）の大きな4つの視点から捉えなおし、それぞれのテーマの専門の方をお招きし お話を伺い、今後のあるべき新しい住まい像を考える。

※各講師の方々のお話はミニセミナーとしてHP上に掲載し、そのお話をもとに、これからの住まいのありよう・住まうための知恵などを検討しレポートとして提示していく。

「広報誌の発行」

- ◆ 広報誌に関しては、研究所の研究成果を広く広めていくという機関誌としての基本的役割に立ち返り、前年度研究をサマライズし英文も加え研究成果を包括的にアピールし成果の普及により一層努めたいと考えております。
- ◆ また、都市の魅力創造・都市生活を送る知恵という研究テーマを念頭に都市生活にかかわる企画を入れ込み、研究所の活動アピールにつながる誌面づくりを目指します。
- ◆ 発刊は、10月発刊を目指します。

④ハイライフ研究に関する催しの開催

ハイライフ研究に関する情報発信、また、よりよい生活構築に向けた啓蒙・提言・行動を行うため講演会・シンポジウム等を企画し実施します。特に今後は、外部の方々との連動を重視し展開を強化していきたいと考えています。

今年度は、新たな視点から展開を図る第一回目として、

「よりよい都市生活を送るために」～今、どのような活動が望まれるか～（仮）

- ◆今年度研究成果も踏まえ、よりよい都市生活の実現へ向けて都市という場で新たに生起している さまざまな活動を紹介しつつ、どのような活動が必要かを考える。

上記セミナーを考えております。